



鶏 鳴

けいめい

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

イエスの言葉

『光の子となるために、
光のあるうちに、光を信じなさい』
聖書(ヨハネ福音書 1 2 章 3 6 節)

牧師 河合裕志

光、光、光と光が立て続けに三つ。この光とは何のこと。この前の節に『光は、いましばらく、あなたがたの間にある』とイエスが言っているところからすると光はイエスのことを指しているよう。

～私のこの世における滞在期間はいましばらくのこと。間もなく私は人々に捕えられ裁かれ十字架につけられる。私は光としてこの世に来た。そんな私を信じてほしい、受け入れてほしい。光のあるうちに。

このすすめに従いイエス在世の頃、光であるイエスを心の内に迎えた人々は少なからずいたけれど今はイエスは不在。だから「光のあるうちに」は宙に浮いてしまう。ただどうかな。肉体を持ったイエスはいないけれどその言葉は聖書の中に残されている。この言葉の中にイエスは今日も存在していると言っはいけない？

それから「光のあるうちに」を目の黒いうちに、ととったらいけないだろうか。生きていれば光を、太陽を見ることができる。死んでしまえば見られない。だからこの世に生きている間に「光の子となるために、光を信じなさい」と受けとつてもよいのでは。

トルストイの『光あるうちに光の中を歩め～原始キリスト教時代の物語』はそんなつもりで書かれたのでは。今生きている間に、ということ。そしてトルストイは紀元1世紀のクリスチャン達の助け合って歩んでいる姿を描いている。

イエスは「光の子となるために」と言っているけれどこれはイエスの子となる、弟子となるとか、希望をもって明るく生きるとか、助け合う、愛をもって歩む、といったことだろう。

とに角イエスは光という言葉が好き。この他にもいろんな所で光について述べている。ということは世の中あんまり明るくない、といった思いがあるんだろう。イエスからすると2千年前も今もそんなに明るくないなあ、ということに違いない。

何が明るくない。それは人々が真の希望を持っていないこと。真の希望って？ それは永遠の命の希望ということ。イエスはこの命を与えるために来た。それはイエスと共にある命、現世より来世にわたり連続と続く命。光である私を迎えて明るく生きる者になってほしい、永遠の命を確信しつつ日々の課題になお前向きに取り組むようイエスは願っている。

集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

求道者会：日曜日午前9時40分

中高青年会：日曜日礼拝後

お話し会、卓球：水曜日午後1時～7時

お祈り会：水曜日午前6時、午前10時、午後7時